



增補  
政書

訓家圖書集成

九

4加  
467  
9



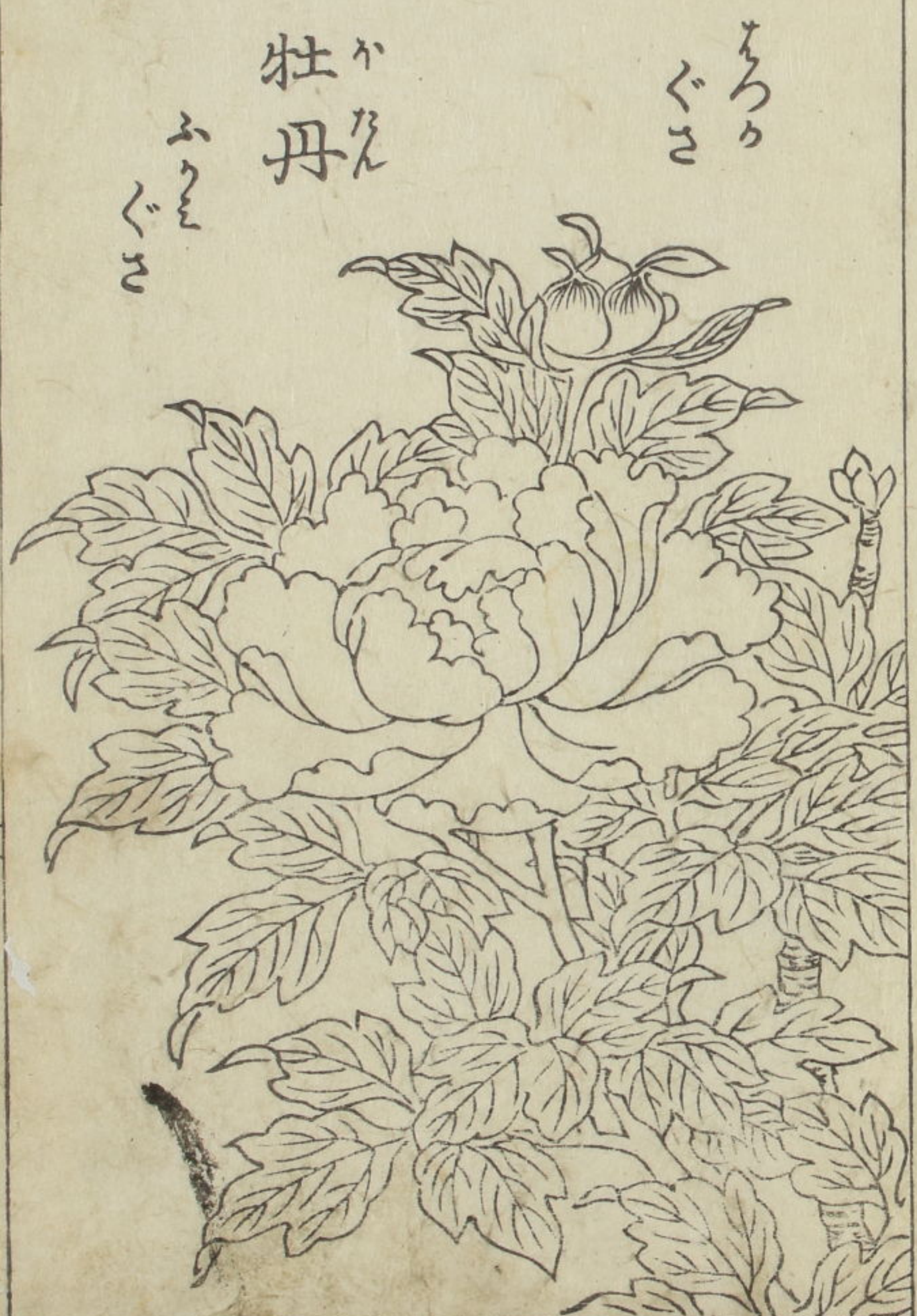


頭書增補訓蒙圖彙卷之二十

花草

此部にハニハニノ草  
牡丹

○牡丹ハゆきみ  
ぐさともいふ  
さともいふ花乃  
又ともいふ花多  
一紅白あり紅を  
上品とせむ花の  
富貴ありりのか  
古人も賞せ  
一名花王又本  
芍薬といふ牡丹  
皮とて薬に用ひ



頭書增補訓蒙圖彙

○芍藥の三枝五葉多し花牡丹に似くとも少く夏の花は紅白紫あり花相將離といふ根と葉小月白

○揚草の葉は蕪菁の如く少て三月花さ



芍薬  
揚草

○葵の類名あり葉大ゆて花は紅又は白あり花さく葉のたつた物のこゝろあり

○蜀葵の葉はひかり花は赤く濃紅別々

○錦葵の葉はかり又疎葵とも云

○蜀葵の葉はかり又疎葵とも云

○錦葵の葉はかり又疎葵とも云

○蜀葵の葉はかり又疎葵とも云



錦葵  
蜀葵

○芙蓉の葉葉

のどく花紅白

ひんせん

一重子重わりの

えの本槿似く大

かり清く美あり

七月花さく

○龍膽の花格紋

の花れきの

葉の葉の

九月のそと花さく

俗ふらん

○秋葵二名黄蜀

葵とらん又側金盞

葉とらん

わり秋くと美あり

花さく俗よとらん

○芙蓉の稷子似く

実か一名狗尾

草と黍粟の中に

生と俗よとらん

○金錢花の午時

花ともいふ秋花さく

こいねとらん

一名子午花

芙蓉

龍膽



秋葵

芙蓉

金錢花



○蘭の茎は

たねは葉みどりを

かり水沢のや

つみまど花黄

白くしてうじ

葉の品類多

○風蘭の一名と

桂蘭とも吊蘭

ともついで数

岩蘭岩石蘭

かといふあり

○鶏冠の葉草

に似く少し長

く茎赤く花は

赤黄又のまり五

六七月花きたお

後まてわり鶏冠

花とも書なり

○秋海棠の秋

花さうをわき

茎葉ともふゆ

あつとわき

蘭の神言

蘭  
ふと  
むくは



風蘭

秋の海棠

鶏冠



蘭の神言

○前秋羅の花  
石竹のごとく朱  
色にく英かり  
六月花咲ふ  
黒とつもけ花也  
○剪春羅の花  
の色せんとうり  
薄く黄まわり  
○薏苡の子白と  
黒も薏苡子と  
つ五臓と活と



○百合の品類多  
此花三月末より咲  
けりを紅あり  
○卷丹の六七月  
花さくちやして英  
赤一又六尺もち  
のびて花多くさく  
葉のちりにくつと葉  
まじると一名番山丹  
○山丹の四月妙  
花さくわくして赤  
白も赤の極也  
うろく一握丹同  
け外敷多くわり



○他偷の四月の

末より花さく其

品多し花黄多

わらふ花さく小

種くろく又秋

さく花あり

○麗春の三月に

花さく一室の如

子さくわくあてつ

白一名仙女養

又御仙花といふ

他偷  
たゆ  
まひ  
林

麗春  
るいしん  
びん  
ま



○金盞花の花

のめつら盞の如

し色赤く三月

花さく今得て

全積花といふ全

積花の別種多

○春菊の花白く

あやひ黄あり三

月花さく蒿茶

花といふまゝ人の

時食と

金盞花  
きんせんくわ

らん  
く

春菊  
はるきく

らん  
ま



蒲公英

たんや

虎杖

とんざ



董菜

とんざい

○蒲公英の花  
 白と大つり黄と  
 いふたり二三月  
 花さく葉はさう  
 て食と  
 ○董菜一名葉  
 頭草と云とも  
 とうごさう花葉  
 白花又うと葉乃  
 の葉丸く小也  
 ○虎杖は月水風  
 通利瘰癧を破  
 湯洗やち小便を利  
 服するはうと治す

萱草の花

卷丹の花

赤く秋長は咲

香気多分はて

食と水氣乳よ

うんま痛と治と

食は消とこのん

てううは悦てうま

ひかー花子葉

ののい毒ありあや

ゆるて喰へくば

○酢漿水の名酸

草とく俗よ云

とりのごさ

萱草

かき



酢漿水



○射干やせがきのひわき

ともひの葉のころ  
捨いふわふな似ふうら花い

若さ赤あ一い二に三さん月げつ花はな  
うう鳥と扇せん鳥と畢ひ

カか一いひひ小こ同どう

○蝴蝶花ことうかいの射干やせがき

の類るい多おほり三月さんげつ白しろき

花はな咲さき中なかにあり

俗よふふややらんらんとといいふ

ちやちの射干やせがきの音ね

をを誤あやしまひひののかかりり

○夏なつ枯こ草くさの野の野の

多おほくく落おちち紫むら花はな咲さき

○鴉い尾おの葉はの射や

于おにに少すくくりり花はなの

ひひくくささたたりり花はな

をを紫むら羅ら傘さんと

ひひの四月しがつ花はなささく

○馬ま薊あざみの沢さわ色いろ



馬薊

鴉尾  
鴨脚花



射干

蝴蝶花  
ちやが

夏枯草  
うらがさ

○牡丹の水中に  
 生じ花大ふし七  
 色桔梗の花は  
 にくらり一夏  
 のうらふ花さ  
 ○菖蒲の花牡丹  
 若小竹く小く  
 葉も細く又菖  
 蒲と云い別種也  
 花さく又花菖  
 蒲と云い一種也



牡丹

若小竹

菖蒲

花さく

○様錦の六七月  
 葉紅かり黄緑  
 色は紅と十様  
 錦といふ厚葉で  
 紅かり瓜唐菜紅  
 との俗よ葉錦取  
 とのあり  
 ○桔梗の花は葉五  
 白わり一重五のこ  
 孫五六月ふひく  
 又梗草とさづく



様錦

葉紅

桔梗

白わり

○鳥頭の花き

やうの花の色あり

かすら鳥の頭れ如

一亦とらとくぞと

乃くくらに似たり

九月花さく

○鳳仙花の花紅

白わつと七月さ

さく又金鳳花を

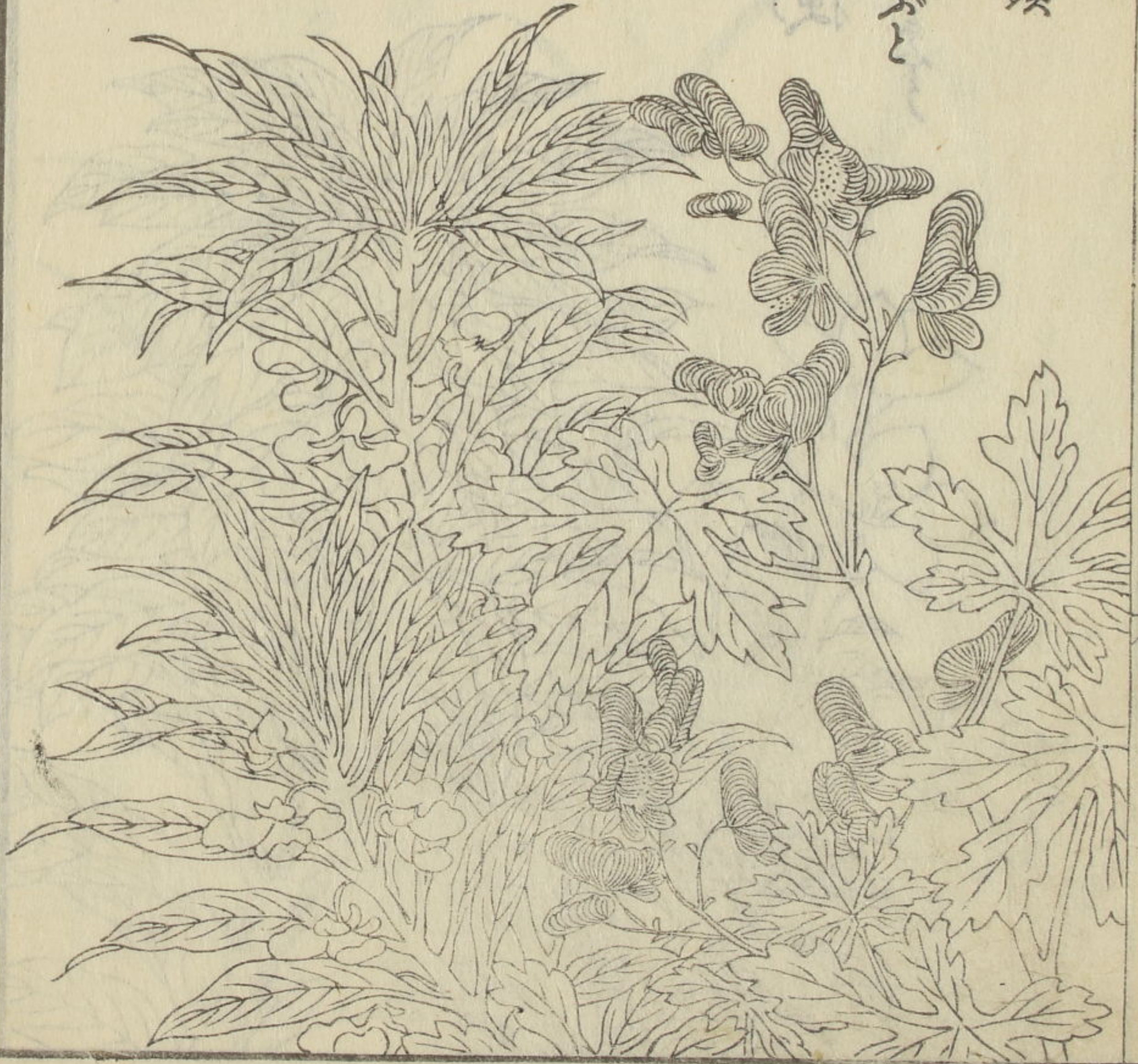
つゝ花小黄ば玄碧

わりと

鳥頭

ふと

鳳仙花



○番椒のせんさ

を治し虫とこ

ろと人まどくこ

○大菊の一名の連

陽花といふ白輪

ふひふ花ありよ

つゝ日車とも云

花菊小ゆく大也

色黄又白とも

わりと

○杜蘅の葉の馬

蹄に似たり紫

の花嗅馬蹄香

土細草といふ

番椒

たうがし

大菊

くはな

杜蘅

つばね



○蒿花微い花紅白  
 黄為紅の千重の  
 の瓜牡丹いさ  
 といひ一葉あると株  
 蒿花と云一名月  
 紅又長春ともい  
 ○慎火一名景天  
 又戒火ともいふ  
 カハ瓜佛甲草と  
 いふあり  
 ○苔蘇同水には  
 と涉致黒と云石ま  
 瓜石濡尾よあり  
 を屋遊場と垣を

○酸漿(五月)  
 白と花候実赤  
 くさうらうれじ  
 よろく令燈籠と  
 ○旋覆の葉と  
 瓜花の葉と  
 菊はゆかり六月  
 花さく又九月  
 らさたの花さく  
 紫花といふ夏  
 瓜事瓜花あり



蒿花

いさ

慎火

いさ

佛甲草

苔



酸漿

いさ

旋覆

いさ

○藤の三月の末  
 小花さく及此葉の  
 おとく花の長三  
 四尺より及ぶ白花の  
 早くさけて種一  
 一名招豆藤  
 ○石斛の石上小  
 生を胃の氣と  
 平に皮膚層  
 の邪熱とさる一  
 名石遂



○棟棠の花黄  
 て一重有八重五  
 二月花さくわらひ  
 の地棠花とさく  
 ○卷栢の名と地  
 栢と云石間又生ス  
 生少く用まひ血  
 と破灸きい血と止  
 ○玉栢の名万年  
 松とも云老と云石  
 松又玉遂ともい



本草綱目卷之七  
 三

○葦の水色よ  
 生をのまゝの青さ  
 らぬ草といひ長  
 成るとて葦草と云  
 葉の竹ふゆく花  
 の秋のごとく  
 ○蓮の花紅白  
 葉と荷といひ根  
 と藕といひ花を  
 葉と谷といひ実と  
 蓮葯といふ



葦  
 あい  
 ー

蓮  
 めん  
 ー  
 ー

○菖蒲一才九節  
 かるりの瓜菖  
 蒲と名付冬至  
 の後五十七日あ  
 ててあててあて  
 ○菰の水色に生  
 を菖蒲といひ名  
 其父草又蔣草ト云  
 ○蒲の水色に生  
 を菰といひ蒲  
 挺りまやこ花上の  
 黄粉と蒲黄と云  
 ○萍の水よりの  
 て根が血色に如



菖蒲  
 あい  
 ー

菰  
 まこ  
 ー

萍  
 うき  
 ー

蒲  
 がま  
 ー

くわんどうは草薺ト云  
 ○薺の水色に生じ  
 香附子の苗より  
 一名沙白薺  
 ○薺の沢地を生じ  
 薺の葉は細く長く  
 瘰癧小瘰癧に用ひ  
 ○薺の中を補ひ  
 中を多く食ひ凡  
 薺の根をどうと云  
 と黄薺といふ  
 ○薺の九月十月に  
 生じ緑色の葉と深  
 一名黄草薺竹玉薺  
 ○薺の水底に生じ  
 薺の根のじと上青  
 くわんどう花薺



薺の葉は小ほはら  
 ○薺の葉はく毛  
 わり薺の葉はあ  
 薺もたるとなり  
 ○薺のくま方  
 て薺のくま方  
 及紫かり桂葉同  
 薺も葉も薬種  
 小りら  
 ○薺のくま方  
 や水氣面を  
 くらと活用の  
 ○薺の薺の二月  
 薺の薺の薺の薺  
 和名小薺  
 薺の薺同



○菊の百種あり  
花も数あるを以  
痛目依ゆらふ  
一草とのぶきと  
つり茶ふの茶色  
かき菊より種あり  
○芒の芽ゆかり  
皮の縄又の履ふつ  
くまゆり大と石芒  
小と芭芒とあり  
○荏の白蘆とも  
つら山野ふ多く  
生と油ゆかり  
えのわがうとのふ



○牽牛の葉三  
尖あり花いびと  
き白のひししり  
あそをひひ花出  
て紅候飛入花飛  
もあそあり  
○鼓子の花のこ  
ち軍中に吹鼓子  
のこし鼓ふ鼓子  
花とのふ又旋苗  
花ともいひ  
○蒴藿の枝  
五葉花白く実  
青く绿豆のじ  
痛ふ小葉と付  
一名接骨草



本草綱目卷之七

十四



○水仙花のさ  
初ら花ひくれ  
初ら花ひくれ  
くら酒盃の如く  
黄おの初ら花ひ  
らわいしうを全  
盃銀盃といふ  
ふら石蒜ゆら  
○麦門冬の四月  
ふらとひらたの  
花ひら実緑よ  
志く珠のてく花  
秋の花のさ  
根と葉は用也



水仙花  
とせん  
水

麦門冬  
せうもんとう

せいもんとう

○瞿麦の花のさ  
花ひら六月ふさ  
河系に多うを  
花の彩花のりさ  
もつわり  
○石竹の梅子ふら  
似く花紅白の便  
など種わりふさ  
月小花う一重ふ  
まわり  
○玉簪の葉エカ  
秋花うさうとふ  
数ふわりとふら  
まう一名白鶴仙



瞿麦  
くまき

石竹  
いししゆく

玉簪  
たまざん

白鶴仙  
びやくかくせん

○蒼木の花うと  
赤い脚ととこや  
みし湿気くまや中  
とゆくと山薊と  
もいふ花の中白木  
○本賊の目のこと  
を退積塊と消を  
和名とさ板を  
あつし磨く用白  
○山葱の一名と漏  
葱とも又鹿耳  
葱ともいふ俗小  
いふさうしやん  
はくちを

○石荷の一名虎耳  
草といふ水湿地  
に生を五月花候  
○馬勃の湿地を  
木のうへを小生  
どのどのいふま  
治を二灰菰牛尿  
菰といふく  
○石草の湿地に  
生を葉大やて  
のく皮のく枝  
かき一葉ついで  
勞熱の氣をつと  
たり麻痺を治と  
○螺麿の一名鏡面  
草といふ石上ま  
のくく又豆の



本草綱目卷之九

○芭蕉の葉落  
 ぞ一葉のつら附の  
 一葉焦りつくこ  
 まは芭蕉といふ  
 ○芋皮とてなを  
 布と織さし布の  
 こまかり行同  
 うくともいふ  
 ○艾のま苗とは  
 秋ふきたさく艾  
 蒿かり又蓬草  
 とす  
 ○苳解の腰背と  
 こころのまは始  
 腎とささるひ筋  
 とくく精  
 まし目と



芭蕉

芋

艾

苳解

○華蔓草とい  
 きのこらけんの  
 つぎつぎふく  
 為紅ささる三月  
 花さく  
 ○鼠麴ほろいふくま  
 る花さく前ほろの耳  
 の毛けれとくま  
 生と又前耳草と  
 もいふ  
 ○羊蹄ぎん一名ぎん  
 菜とも又牛舌菜  
 ともいふ菜と金蕎  
 麥とす



華蔓

鼠麴

羊蹄

本草綱目卷之二十一

○陵苕の本にま  
 ろふ其よんと秋と  
 花咲く赤し又  
 陵苕花といふ  
 ○藍の葉葉ふ  
 似く大なりぬこ  
 での如く葉の中に  
 黒き点々入る六月  
 紅の花うき葉は  
 深色にりらる  
 ○茜のわら久と  
 とし草かり一  
 名地血といふ深  
 緋草ともいふ



○山薑の葉葉  
 似て花のし子  
 草豆蔻ふてぬ  
 の杜若ゆふと名  
 羨草  
 ○澤漆の葉馬齒  
 莧ふ似たり深ふ  
 てみどり葉と花  
 さく毒草なり  
 ○菝葜の葉新の  
 葉のどく中空  
 ちて又かこふ秋  
 花さば葉は似  
 ぶ葉小刺あり



○蒼耳の葉おろ  
 の〜風湿つぼ  
 氣分す〜目とゆ  
 小〜あひきと清  
 ○車前くるまぜんの葉は  
 とゆと七八月の  
 実と〜茶苡牛  
 舌同  
 ○龍芮りゆうぜいの四五  
 葉から花を採  
 とひ〜大豆の  
 子〜一名地樞  
 ○防風ぼうふうの五月  
 葉と生〜八月  
 に葉を採る花を  
 六月ふらりと  
 ひす



○紅花こうかの血とや  
 〓瘀血の〜を  
 ちめんとを  
 花と〜して紅  
 ○積雪せきせつの各つ  
 ち〜葉を採  
 ちて残の〜  
 かり連銭草胡  
 薄荷並同  
 ○苦参くさんの根は  
 たり花を採  
 実の〜根を  
 水槐地槐同  
 ○蛇牀へびじょうの氣と  
 中とわ〜め  
 かい風瓜の  
 蛇栗同



本草綱目卷之五十一

○前茶のまれの天  
毒のまれの  
○葛の粉の湯と止  
るつとて胃と  
ひき酒と解  
し小便と利  
熱をさる  
○紫草の九散と  
つじ水と利  
ま爪消とやうさ  
うはう一名菴  
菴といふ  
○鴨跖の野外に生  
む花を  
碧蟬花 筴竹花  
並同



○南星の同疾と活  
し乃瓜やどりこ  
なりつら小はつ虎  
掌鬼蕩蕩といふ  
○防己の同湿脚氣  
の痛と活し癰と  
痛と活し解離た  
○牛膝温小してび色  
久腰脚といふと活  
山萸菜 對節菜  
とあつ  
○水菺のさうにけ  
るつとて胃と  
つらかり大毒あり  
○絡石の毒木の如  
く花白く実くら  
石とまふ



本草綱目卷之四十四

○茴香の疝氣を  
のぞく腰をのぞく

○天茄一名天茄  
小ぢり八月のま

○菥蓂の花葉  
白かり一さの毒

○茵陳の葉のう  
ら白くまゝ丸

○玄及の葉と五  
味子との入枝を

○地膚の若葉とく  
ら糸帚獨帚同

○菥蓂の益母草  
とつゝ湿地よけど

○天茄の一名天茄  
小ぢり八月のま

○菥蓂の花葉  
白かり一さの毒

○茵陳の葉のう  
ら白くまゝ丸

○玄及の葉と五  
味子との入枝を

○地膚の若葉とく  
ら糸帚獨帚同

○菥蓂の益母草  
とつゝ湿地よけど

○天茄の一名天茄  
小ぢり八月のま

○菥蓂の花葉  
白かり一さの毒

茴香

天茄

菥蓂

茵陳

玄及

青蒿

菥蓂

茵陳

地膚



○忍冬の木にま  
 さん葉を多くむる  
 三四月花を初霜  
 く後、葉がかりつ  
 金銀花といふ  
 ○茅の水とく血  
 と破り小腸とつじ  
 消渴鼻血下血  
 治と又葉といふ  
 ○萍蓬の水沢ふ  
 けを養ひ慈姑小  
 あつり水栗骨  
 蓬同  
 ○藻の水は二葉  
 大あつる藻葉の  
 切をた水蒸しと  
 る尾藻といふ



○蒺藜の山野  
 多く莖くし  
 て刺わり養をく  
 大あつてその蹄  
 のぶく秋わん  
 葉の  
 ○秋の郊野に生  
 たり瓜野蒺藜と云  
 葉をたかり花が  
 云々文城野といふ  
 花紅白あて大あ





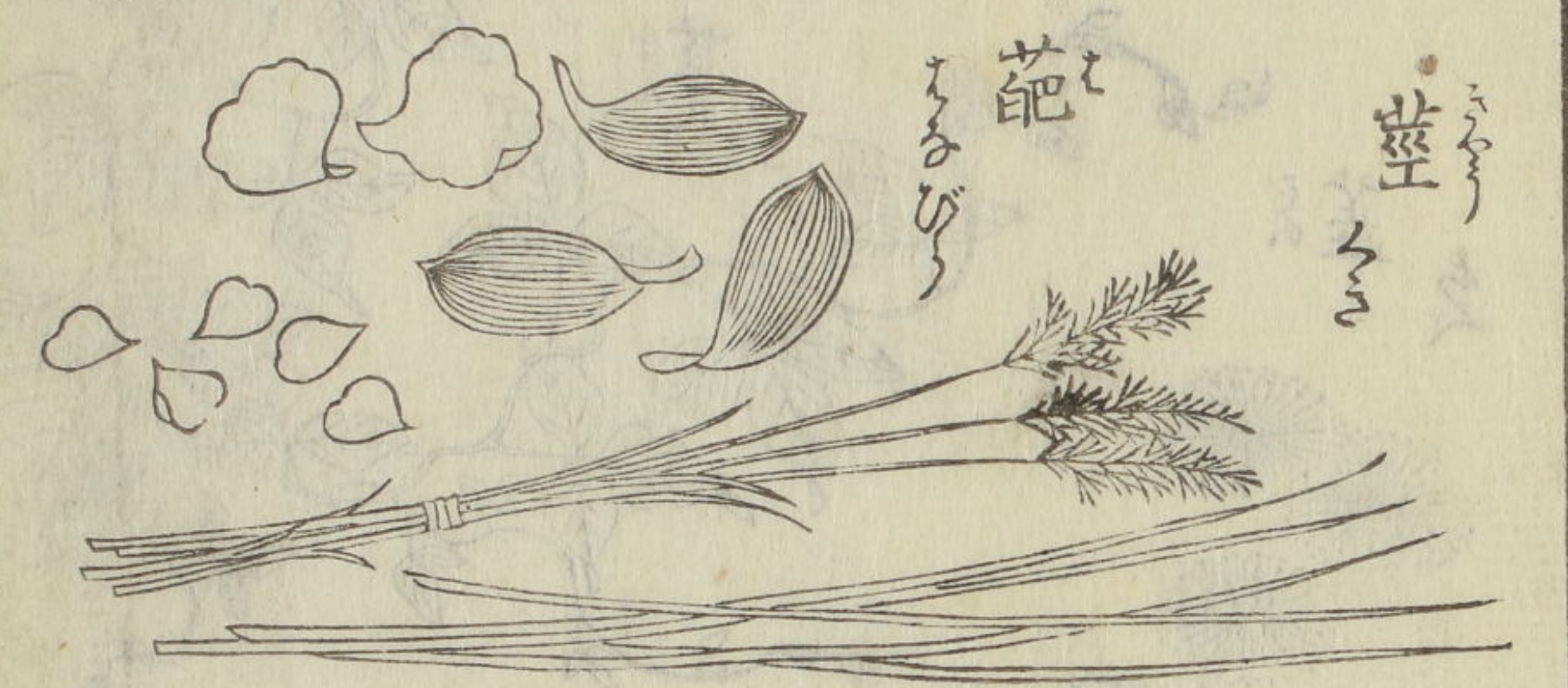
○建蘭の今  
 白蘭花を二  
 葉花ともいふ  
 鉄脚蘭ともいふ  
 ○金燈の石帆  
 一名鬼燈檠又  
 蔓珠沙花とも  
 いふ秋の末赤と  
 花よく莖の赤く  
 の如く一花葉



建蘭

金燈

○石帆の石上よ生  
 ○莖の赤く  
 葉同莖の赤と  
 苞とつらふ葉と  
 草根と葉とつら  
 さのひかり  
 ○莖の赤く葉の  
 どのたうかり草  
 同  
 ○葩の赤くびら  
 花は花瓣並同



莖

葩



石帆

莖

建蘭の今

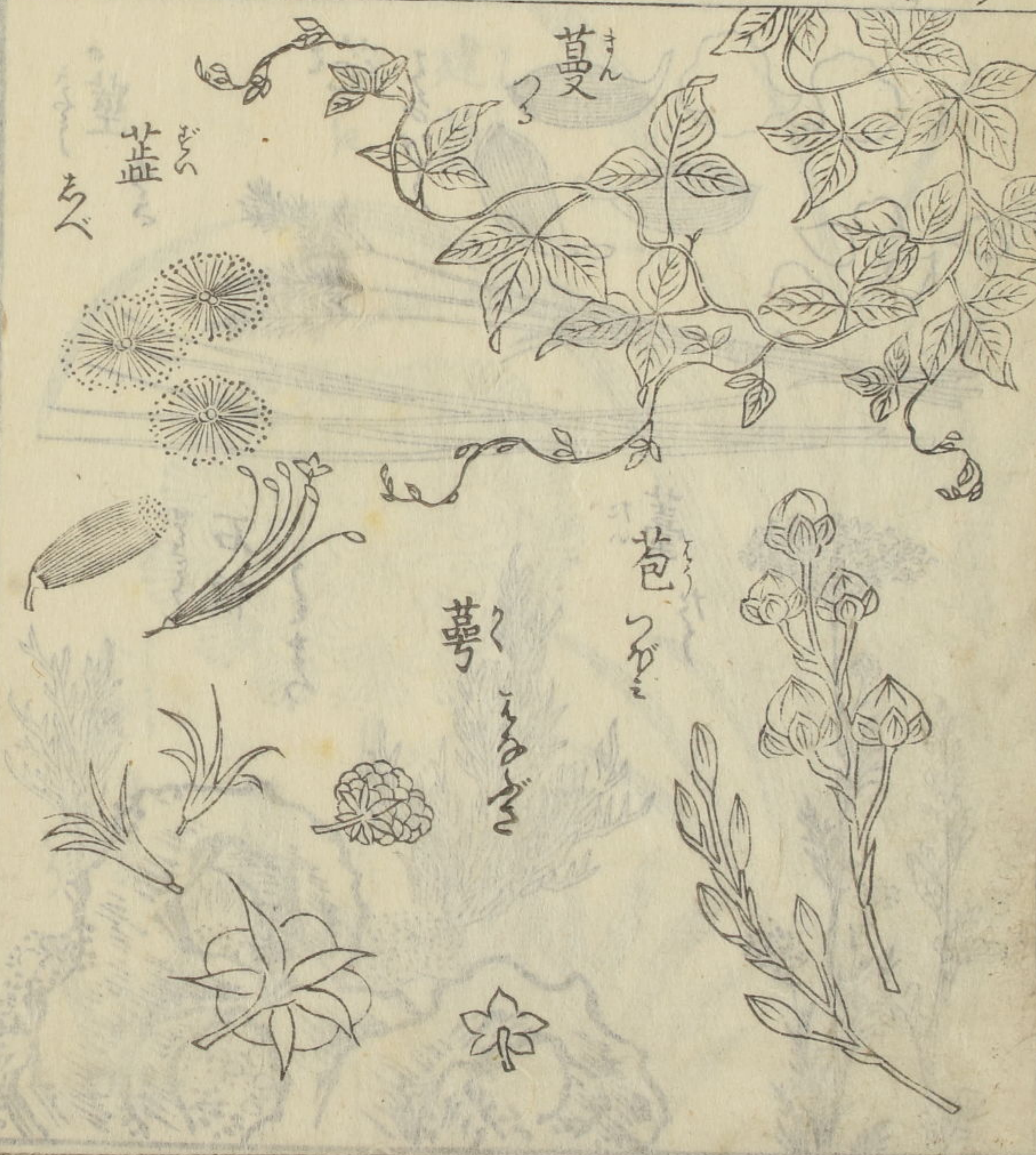
廿三

○蔓のほろあり  
本の本と花とふ  
草のふと蔓とふ

○苞つがとあり  
蓓蕾同

○葇の花のちび  
なり蕊葉ふ  
らびふ同又花心

○萼のちび  
なる花蒂花  
附ちびに同



野書地神言家園集七

